

<日商簿記 3 級> フリーテキスト講座

～消費税(決算)・法人税等(決算)～ 全5枚



弥生カレッジ GMC フリーテキスト講座(無料動画で公開中)

あとは仕訳ですね

仕 入 1,000 / 現 金 1,080
仮払消費税 80

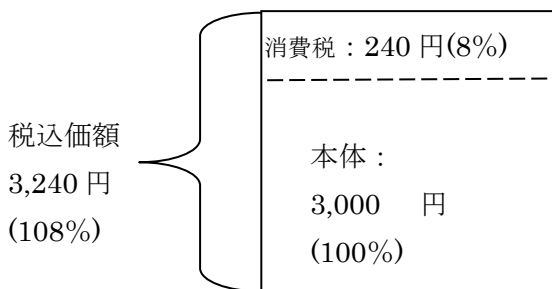
仮払消費税は【資産】です。

商品売り上げたとき

【例2】 商品 3,240 円(税込価額)を販売し、代金は現金で受け取った。消費税については、税抜方式で記帳する。なお、消費税率は 8% で考えること。

計算のイメージは先ほどと同じように考えます

本体価格を計算すると…



$$3,240 \text{ 円} \div 1.08 = 3,000 \text{ 円(本体価格)}$$

もしくは

$$3,240 \times 100 / 108 = 3,000 \text{ 円(本体価格)}$$

現 金 3,240 / 売 上 3,000
仮受消費税 240

仮受消費税は【負債】です。

税抜方式の場合は、上記のようにして処理を行いますが、試験の時は、消費税の指示がある時だけ、「仮払消費税・仮受消費税」は使用するようになっていますね。

また、「仮払消費税・仮受消費税」は決算のときに相殺します。決算時の処理の仕方も確認しておきましょう！



決算手続:消費税の納付額の計算

【例3】 決算において、消費税の納付額の計算をおこなう。仮払消費税と仮受消費税の差額は、未払消費税にすること。

前 T/B において

仮払消費税
18,000

仮受消費税 26,000 / 仮払消費税 18,000
未払消費税 8,000
未払消費税は【負債】です。

仮受消費税
26,000

未払消費税＝納付額です。

決算においては、納付する消費税額が確定しただけなので、ここでは未払いとします。

未払消費税

～法人税等(決算)～

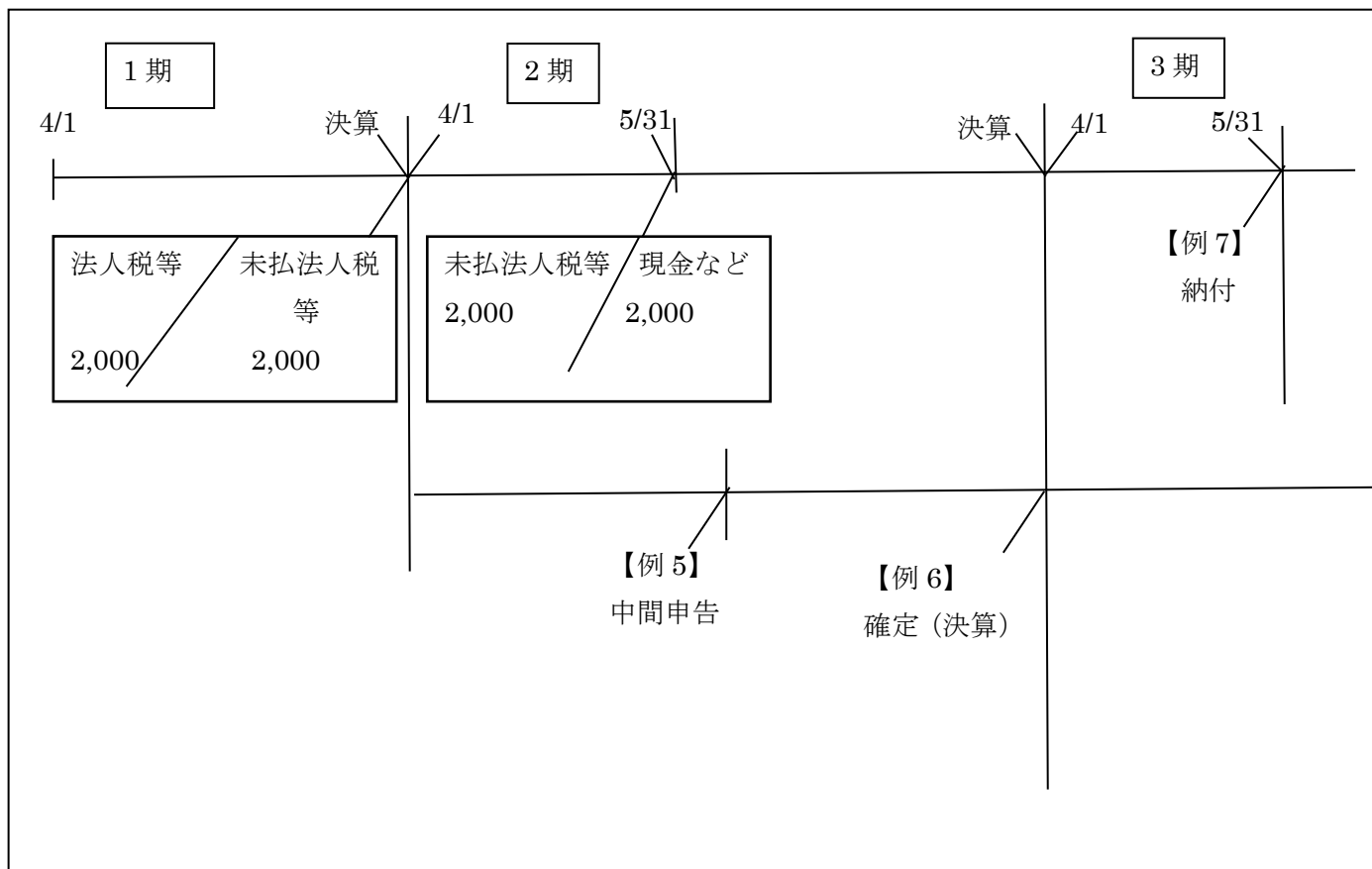
皆さんが普段納めている「税金」というと、何を思い浮かべますか？先ほど確認した消費税のほかにも所得税・住民税・固定資産税・温泉利用で入湯税などなど…沢山ありますね。

皆さん同様に株式会社（法人）などもさまざまな税金を納めています。

その中で、法人の利益に対して課される税金に「法人税」「住民税」「事業税」があります。

勘定科目では、「法人税、住民税及び事業税」という長い科目です。まとめて「法人税等」という科目で処理をすることもあります。

では、「法人税等」について学習していきましょう！



法人税等を中間申告したとき【例5】

法人税等は、決算において会社の最終利益が確定した後に税額を申告（確定申告）し納付しますが、決算が年に1回の会社は、会計期間の途中で半年分の概算額を申告（中間申告）し、納付します。

【例5】本日、法人税の中間申告をおこなった。税額は1,000円で、現金にて納付した。決算日は3月31日である。

仮払法人税等 1,000 / 現金 1,000

仮払法人税等は【資産】です。

日商簿記3級フリーテキスト講座
～消費税(決算)・法人税等(決算)について～

法人税等が確定したとき(決算)【例 6】

【例 6】決算において、当期の法人税等は 3,500 円と確定した。なお、中間納付額 1,000 円は仮払法人税等で処理している。

前 T/B において

仮払法人税等
1,000

法人税等 3,500 / 仮払法人税等 1,000
未払法人税等 2,500

法人税等

法人税等は【費用】です。
未払法人税等は【負債】です。

未払法人税等

日商 3 級の場合、当期の法人税等の金額は問題分に与えられます。
日商 2 級になると、当期の法人税等の金額は自分で計算するような問題になります。
日商 3 級の時点では、上記の決算仕訳ができるようになっておきましょう。



未払法人税等を納付したとき【例 7】

【例 7】未払法人税等 2,500 円を現金で納付した。

未払法人税等 2,500 / 現金 2,500